

「眼球運動データを用いたリフレクションが看護場面の観察におよぼす効果」 に関する実験について

三重県立看護大学大学院看護学研究科 八木なつみ

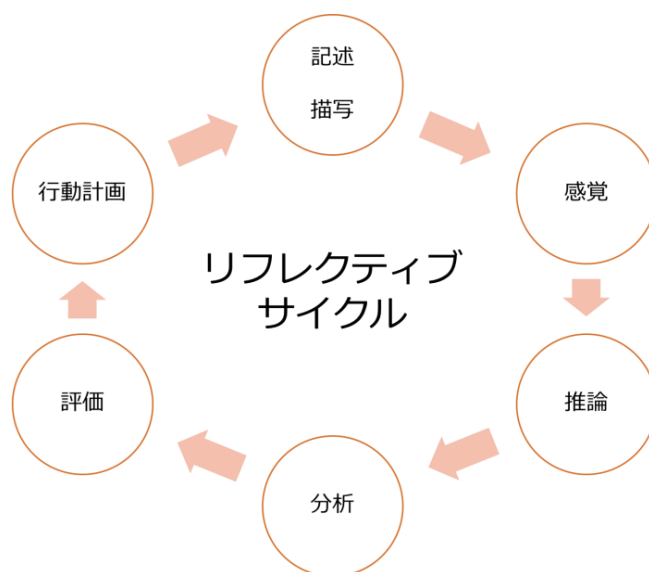
1, 研究の目的と意義

看護場面の観察は手技が客観的に目に見えず、観察の教育や学習は困難と考えられます。そこで本研究は、観察に対する学習ツールの一つとして、観察技術を可視化する眼球運動測定装置（以下：アイカメラ）の活用に着目しました。

本研究の目的は、アイカメラによって測定された観察時の眼球運動データを、観察後のリフレクション学習に用いることが、看護学生の観察技術を向上させるのかを明らかにすることです。

【リフレクションとは】

- ・「内省、省察、熟考、反省から得られた感想、意見、考え」など様々な意味合いがあり、「思考すること」が基盤にあります。
- ・本研究におけるリフレクションは、観察時に測定した自己および熟練看護師の眼球運動データを見て、自己の観察を振り返ることです。眼球運動データを見ながら、自己の観察技術に対して感じたことや考えたことを、リフレクティブサイクルに沿って口述をする方法とします。



Gibbs のリフレクティブサイクル

2, 実験方法

【実験スケジュール】

研究期間：令和 2 年 3 月～令和 3 年 3 月

実験場所：三重県立看護大学 大学院棟 2 階 研究実験室

実験所要時間：約 1 時間 30 分

実験の流れ

- ①研究概要の説明と同意書への記入：約 10 分
- ②実験の説明と練習：約 20 分
- ③本実験（観察とリフレクション）：約 40 分
- ④質問紙へ記載：約 2 分
- ⑤補充教育：約 20 分

- ・アイカメラを装着する前に、本実験とは無関係な画像を用いて実験の練習をします。
- ・観察をしていただく場面は、一般病棟の日常生活における看護場면을再現した画像です。
- ・質問紙では、ご自身の学習経験等に関して確認をさせていただきます。
- ・補充教育では、観察場面について答え合わせをします。

【アイカメラ使用上の注意事項】

- ・眼球運動の測定のため、裸眼または色の付いていないソフトコンタクトレンズを装着し、両目で視力 0.7 以上ある方を対象とさせていただきます。ハードコンタクトレンズを装着されている方、屈折異常以外の眼疾患を有する方は、対象外となります。
- ・アイカメラの装着は、こちらで対応させていただきます。装着後は、わずかなズレが結果に影響するため、帽子に触れたり頭を動かさないようご協力をお願いします。
- ・アイカメラ装着中に、目や身体などに違和感が生じた場合や、気分が悪くなった場合には、すぐに申し出て下さい。その場合は直ちに実験を中止します。

【アイカメラ装着と視点の調整について】

- ①指定の椅子に座っていただき、帽子型のアイカメラを装着します。帽子や頭部の位置、および画面の高さなどを研究者が調整し、頭部をベルトで椅子に固定します。
- ②視点の調整をします。その際、緑の光を見ながら手持ちのボタンを押す作業を数回繰り返し行っていただきます。
- ③調節された視点の位置を確認後、アイカメラと実際の視点のズレが大きい場合は、②の作業を繰り返し行います。

3, ご協力いただく際の配慮

- ・本研究は三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得ています。
- ・本研究は他施設および各機関に係わる利益相反はございません。

【予期される利益、危険性または不便】

- ・本研究にご協力いただくことの利益は、自己の観察を眼球運動データによって可視化することで、観察の特徴を学ぶことができることです。
- ・本研究にご協力いただくことの不利益は、実験は大学に来て頂く必要がある点です。また、実験で行う観察は合計数分程度ですが、万が一目に疲れが生じた場合は、直ちに実験を中止します。
- ・アイカメラを使用するにあたり、レーザーおよび近赤外線を用います。そのため間違った使い方をした場合、目に対する安全な放射量を超えることがあり、この場合、視力の低下、角膜の炎症等の症状が出る恐れがあります。ただし、本製品に使用されている近赤外放射光の目に対する安全性はレーザー製品の放射安全基準を基に検証されており、マニュアルに従い正しく使う限りにおいては安全であり、研究者は製品の安全性について良く理解した上でマニュアルに従って使用します。なお、指導教員である斎藤教授はアイカメラについて精通しており、研究者は直接斎藤教授よりアイカメラ操作の指導を受け、習熟度の確認を受けています。また研究者は、令和 1 年度に他の研究者のアイカメラを使用した実験の補助を行っているため、アイカメラの操作にあたり必要な習熟度を担保しています。
- ・万が一、実験中に目に何らかの異常を感じたり、気分が悪くなったり身体に異常が現れた際には、直ちに実験を中止します。受診が必要な場合は受診先を手配し、研究者が受診先まで付き添います。

【プライバシーの管理およびデータの取り扱い】

- ・本実験では、アイカメラによる録画と、ボイスレコーダーによる録音を行います。得られたデータは研究以外では使用しません。データの扱いについては専用のハードディスクのみに保存され、大学の外に持ち出しません。データは鍵のかかる実験室に保管し、データ保管期間は研究終了後 10 年間とします。保管期間が過ぎた後は、データを削除いたします。

【研究成果の公表】

- ・実験結果は、三重県立看護大学内での修士論文発表会への発表を予定しておりますが、個人が特定されることはありません。

【費用負担】

- ・実験時に、万が一医療機関への受診が必要となった場合、受診にかかる費用は負担できかねますので、ご了承ください。

【同意および同意撤回】

- ・実験のご協力は自由意思に基づくものであり、同意されなかった場合も不利益を受けることはございません。
- ・たとえ一度ご同意いただいた後であっても、いつでも撤回していただいてもかまいません。その際は同意撤回書を記載の上、提出してください。同意撤回された場合でも、なんら不利益を被る事はございません。

本研究の趣旨をご理解の上、実験にご協力いただける場合は同意書にご署名いただきますようお願いいたします。ご不明な点やご意見などにつきましては、下記までご連絡いただけますよう、お願いいたします。

【問い合わせ先】

研究者 八木 なつみ
所属・役職 三重県立看護大学大学院看護学研究科
看護学専攻 大学院生
住所 〒514-0116 三重県津市夢が丘 1-1-1
三重県立看護大学
電話番号(代表) 059-233-5602
メールアドレス ma219605@mcn.ac.jp

指導教員 斎藤 真
所属・役職 三重県立看護大学 教授
住所 〒514-0116 三重県津市夢が丘 1-1-1
三重県立看護大学
電話番号(指導教員直通) 059-233-5798
メールアドレス shin.saitou@mcn.ac.jp